

神学における公理

Christopher Ting

✉: **cting88@gmail.com**

😊: **<http://cting.neocities.org/>**

☎: +81 082-424-6451

Table of Contents

- 1 公理と参考資料
- 2 PaRDeS パルデス
- 3 雅歌2:2
- 4 創世記28:12

キリスト信仰の公理

- ✎ 証明が必要としないキリスト信仰の真理。
- ✎ 公理1. 人類を無条件に愛する唯一の神は存在する。
- ✎ 公理2. 選ばれたヘブライ預言者や使徒をとうして、三十九巻からなるタナハと二十七巻からなる新約聖書は、この神による特別な啓示。
- ✎ 公理3. タナハと新約聖書を解釈・研究するには、古代ヘブライ的視点が不可欠。
- ✎ 公理4. 頌栄に導かない神学は、神性を欠いた「脱神学」。
A theology that doesn't lead to doxology is a deology void of divinity.
- ✎ Scripture alone → Faith alone → Grace alone → Christ alone → Glory to God alone.

第一公理の含意

👉 「人類を無条件に愛する」 ⇒ スピノザの神ではない。

観点	スピノザの神	聖書の神
存在様式	自然そのもの	自然を超越
人格	なし	あり
意志	なし（必然）	あり（自由）
感情	なし	愛・怒りなど

👉 「唯一の神」 ⇔ 全ての創造主

- 無神論や汎神論と相容れない
- あるゆる進化論と宇宙起源論と相容れない
- 万有内在神論と同価ではない

第一・二公理の含意

👉 「人類を無条件に愛する」 ⇒ イスラーム教とは違う

- ① 一神教
- ② 創造主
- ③ 啓示（聖典） クルアーン
- ④ 預言者の伝統
- ⑤ 倫理観
- ⑥ 終末論
- ⑦ 天使
- ⑧ 祈り

👉 「新約聖書」 ⇒ ユダヤ教とは違う
ユダヤ教の視点から見れば、キリスト信仰は異端である。

第三公理の含意

- ✧ 古代ヘブライ的視点の方がより聖書著者の意図や文書の本来意味に寄り添う。
- ✧ 「不可欠」 ⇒ 多様化よりも正しさ、寛容よりも精度、調和よりも分断
- ✧ ほぼ現代解釈は正しくない。
 - 古い地球／ギャップ・回復モデル
破壊再建説、断続日説、日-時代説、漸進的創造論、宇宙時間／相対論的日説
 - 文学的／非年代的／機能的解釈
枠組み仮説、機能的創造解釈、宇宙神殿説
 - 神学的／啓示中心的解
有神的進化論（進化的創造）、啓示日説（幻視説）、非調和主義（宗教限定解釈）、局所創造説
 - その他：カオス(混沌)説、文書仮説、二つの創造、神話史的創造.....

第二・三公理による創世記の参考優先順位

- ① 神性：イエシュアと神ご自身が語られたこと
- ② 著者：モーセがトーラー（モーセ五書）で語り、行ったこと
- ③ 聖霊の感動：その他の61巻の聖書の著者たち
- ④ 七十人訳聖書（LXX）
- ⑤ 死海文書（特に『ヨベル書』 ספר היבלים)
- ⑥ ヨセフスの『ユダヤ古代誌』 93–94 AD
- ⑦ 第二エズラ書、アダムとエバの生涯、アダムとエバの第一・第二書など
- ⑧ 中世のユダヤ学者（特にアブラハム・イブン・エズラ、中世の注解者、文法学者）
- ⑨ 聖書ヘブライ語辞典（ストロング、BDB ヘブライ語－英語辞典など）
- ⑩ 聖書ギリシャ語辞典

פְּרָשׁוֹת(パルデス)とは

👉 四段階・四層の解釈方法を指す。

👉 解釈の四つのモードは、タルムードやミドラシュ文献（1世紀～6世紀CE）のようなテキストにすでに存在していたアプローチを反映していた。

👉 ラビたちはすでに、

- 1 平易な意味をそのまま読む (פְּשָׁט פシヤト)
- 2 暗示やほのめかしを引き出す (רְמִזַּי רemez)
- 3 思いを馳せるような解説を広げる (דְּרָשׁוֹת דeraシュ)
- 4 神秘的・隠された意味を探求する (סוּד ソド)

という手法を取っていた。

パルデスの絶対原則

🔖 ペシヤトが最優先

- 字義通り
- 文法
- 文脈
- ユダヤ的言い方
- 修辞（擬人法、倒置法、誇張法、対句法.....）
- 比喩表現の認識
- 書や箇所ジャンル（様式）

🔖 前層の内容と齟齬があってはならない



例となる聖句—雅歌2:2

わが愛する者が娘たちの間にいるのは、茨の中のゆりの花のようだ。



1. プシャット פִּשְׁטָה: 字義的意味

- ⚡ 男性が愛する女性を心から称賛する。
- ⚡ 彼女は、棘の中に咲く一輪の百合のように、他の女性たちの中で特別に美しく、際立って輝いている。
- ⚡ これは、恋愛の喜びと、かけがえのない女性の美しさを詩的に描いた表現。

2. レメズמזמ7: 暗示・象徴

- ✧ 「ゆり」 = 純粋さ・気高さの象徴
百合は純粋さと唯一無二の存在感を表す。
- ✧ 「いばら」 = 厳しい・墮落した環境の暗示
棘は、腐敗した、あるいは過酷な環境を暗示する。
- ✧ 愛する女は、周囲とは^人道徳的・精神的に明らかに異なる、特別な存在を象徴している。

3. デラシュ^{דְּרָשׁוּ}: 解釈・説教的意味

✧ 「ゆり」 = イスラエル

✧ 「いばら」 = 諸国民

✧ イスラエルは諸国の中にあっても特別に保たれている
イスラエルは、周囲を敵対的で偶像崇拝に満ちた文化に囲まれていながらも、その独自性を失わず、信仰に忠実であり続けました。

✧ 契約の民としてのアイデンティティと忍耐を教える
これは、契約によるアイデンティティを守り抜くこと、そして逆境の中でも忍耐と忠実を貫くことの重要性を教える、神学的な深い教訓。

4. ソド710:秘義・神秘的意味

✧ 「ゆり」 = シェキナー (神の臨在)

✧ 「いばら」 = 不浄や裁きの力

✧ 神的現実における結合と緊張関係を象徴
二者の関係は、神の諸側面の宇宙的な合一ごういつを表現している。

✧ 詩の背後にある神秘的宇宙構造を示す
この詩の一節は、表面的な恋愛の言葉の奥深くに、神の臨在がこの世界に隠れて宿っているという、神秘的な現実を鮮やかに刻み込んでいるのである。

なぜこの例がここまで効果的なのか

- ✧ 一見すると、それはただの人間の恋愛詩に過ぎない。
- ✧ それなのに、歴史を通じてさまざまな層で読まれてきた：
 - 神とイスラエルの関係（ユダヤ教）
 - キリストとイスラエルも含めた教会の関係（キリスト信仰）
 - 神と魂の神秘的な結びつき（神秘主義）
- ✧ そのため、短い一節が「パルデス（果樹園）」のような豊かな意味の園となり、

文字通りの解釈 → 道徳的な含意 → 神学的な教え → 神秘的な現実

という四層の意味を美しく結びつけているのである。

例となる聖句—創世記28:12

すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。



1. プシャットー 字義的意味

👁 ヤコブが夢を見る

👁 地から天に届く梯子（階段）を見る

👁 天使たちが上り下りしているのを見る

→ 神がヤコブと共におられることを示す啓示的な夢

2. レメズー暗示・象徴

- 👁️ 梯子＝天と地を結ぶ通路
その梯子は、天と地をつなぐ架け橋を暗示している。
- 👁️ 上り下りする天使＝神と人間世界の相互作用
天使たちが上り下りしている様子は、神の領域と人間の領域が互いに交流していることを示唆している。（例：キリストの受肉）
- 👁️ この世界は閉じたものではなく、天との交流があることを示唆
これは、世界が孤立した閉じた存在ではなく、神と被造物の間に常に往来があり、交流が続いているという大切な暗示。

3. デラシュー 解釈・説教的意味

- 👁️ 天使＝諸国を司る御使い
天使たちは各国民の守護天使を表し、彼らが上り下りする様子は、将来興る帝国——バビロン、ペルシア、ギリシャ、ローマ——の盛衰を象徴している。
- 👁️ 別の解釈では、天使たちはヤコブをイスラエルの地へと導き入れ、またそこから送り出す護衛の役割を果たしている。
- 👁️ この一節は、以下のような重要な教えを含んでいる：
 - △ 歴史は神の主権のもとに動いている
 - △ イスラエルの運命も神の計画の中にある

4. ソドー 秘義・神秘的意味

- 👁 梯子＝宇宙の靈的構造（セフィロトの秩序）
梯子は宇宙全体の構造を象徴する。（多くの場合、セフィロトの体系と結びつけられる）
- 👁 上り下り＝神的エネルギーの流れ
天使たちが上り下りする様子は、さまざまな靈的領域の間で絶えず流れ続ける神聖なエネルギーを表している。
- 👁 ヤコブ＝天と地を結ぶ媒介的存在
そしてヤコブ自身が、宇宙的な仲介者としての役割を担う存在として描かれている。
- 👁 この夢は、次のような壮大なビジョンを秘めている：
 - 神の臨在がどのように世界に流れ込み、満ちていくのか
 - 天と地が織りなす、生き生きとした動的な合一

まとめ

👁️ 個人的啓示（プシャット）

👁️ 宇宙的象徴（レメズ）

👁️ 歴史神学（デラシュ）

👁️ 神秘的宇宙論（ソド）

→ 一つの出来事が多層的の意味を持つ「パルデス（園）」であることを示している。